



# 十一月 (小) 霜月 張宿

十一月七日立冬の節より  
月命癸亥五黄土星の月  
暗剣殺 なし

旧 九月大  
十月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	木	ひのと	九紫	●下弦一時四分、灯台記念日、 教育文化週間、新米穀年度、計量記念日、 一教育文化週間、新米穀年度、計量記念日、 一粒万倍日、 旧九月大	旧暦六輝	廿四	友引	とつ	斗	6.02	23.49	12.03	22.14
2日	金	つちのえいぬ	八白	唐津くんち、不成就日	廿五	先負	たつ	牛	くゑ日	6.03	16.46	13.44	13.01
3日	土	つちのと	七赤	●文化の日、 明治神宮例祭、 東京足立皿沼不動万灯祭	廿六	佛滅	のぞく	女	ちう日	6.04	16.44	14.23	14.17
4日	日	かのを	六白	消費者センター開設記念日	廿七	大安	みつ	虚	きこ	6.05	16.43	14.59	14.17
5日	月	かのを	五黄	世界津波の日	廿八	赤口	たいら	危	十し	6.06	16.43	15.33	14.17
6日	火	みづのえとら	四緑	世界津波の日	廿九	先勝	さだん	室	●	6.07	16.42	16.07	21.47
7日	水	みづのとう	三碧	立冬二〇時三二分、 京都松尾大社上卯大祭	卅	友引	さだん	壁	天火	6.08	16.41	16.42	21.11
8日	木	きのえとら	二黒	●朔一時〇二分、世界都市計画の日、 京都伏見稲荷火焚祭、ふいご祭、旧十月小	朔	佛滅	とる	奎	大みやう	6.09	16.40	17.19	23.30
9日	金	きのと	一白	一九番の日、太陽暦採用記念日	二	大安	やぶる	婁	大みやう	6.10	16.39	17.58	19.41
10日	土	ひのえとら	九紫	秋の全国火災予防運動(9日~15日)	三	赤口	あやぶ	胃	神よし	6.11	16.38	18.41	21.18
11日	日	ひのと	八白	京都空也堂開山忌、京都嵐山紅葉祭、 世界平和記念日、不成就日	四	先勝	なる	昴	●	6.12	16.37	19.18	20.25
12日	月	つちのえとら	七赤	鳥根出雲大社神迎祭、奈良談山神社例祭、 市川中山法華経寺御会式、とおかんや、将棋の日	五	友引	おさん	畢	●	6.13	16.37	20.16	20.25
13日	火	つちのと	六白	八せん始め	六	先負	ひらく	觜	十し	6.14	16.36	21.08	21.08
14日	水	かのを	五黄	一粒万倍日	七	佛滅	とつ	参	大みやう	6.15	16.35	22.02	22.02
15日	木	かのを	四緑	●上弦三時五四分、七五三、炉開き、旧亥の子餅、 本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁、三隣亡	八	大安	たつ	井	大みやう	6.16	16.35	22.57	22.57
16日	金	みづのえとら	三碧	八せん始め	九	赤口	のぞく	鬼	くゑ日	6.17	16.34	23.03	23.03
17日	土	みづのとう	二黒	鳥根出雲大社神迎祭、奈良談山神社例祭、 市川中山法華経寺御会式、とおかんや、将棋の日	十	先勝	みつ	柳	くゑ日	6.18	16.33	23.57	23.57
18日	日	きのえとら	一白	一茶忌、不成就日	十一	友引	たいら	星	月とく	6.19	16.33	0.49	0.49
19日	月	きのと	九紫	一茶忌、不成就日	十二	先負	さだん	張	神よし	6.20	16.32	1.46	1.46
20日	火	ひのえとら	八白	京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌	十三	佛滅	とる	翼	大みやう	6.21	16.32	2.45	2.45
21日	水	ひのと	七赤	京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌	十四	大安	やぶる	軫	くゑ日	6.22	16.31	3.42	3.42
22日	木	つちのえとら	六白	小雪一八時〇二分、豊川稲荷秋季大祭	十五	赤口	あやぶ	角	神よし	6.23	16.31	4.48	4.48
23日	金	つちのと	五黄	●勤労感謝の日、○望一四時三九分、 熊本八代妙見祭、笠間稲荷穀穀献納祭	十六	先勝	なる	亢	大みやう	6.24	16.30	5.54	5.54
24日	土	かのを	四緑	防府天満宮裸坊祭、庚申	十七	友引	おさん	氏	●	6.25	16.30	7.00	7.00
25日	日	かのを	三碧	三の酉、神道修成派教祖教霊大祭、 一粒万倍日	十八	先負	ひらく	房	十し	6.26	16.30	8.07	8.07
26日	月	みづのえいぬ	二黒	一粒万倍日	十九	佛滅	とつ	心	ぶく日	6.27	16.29	9.10	9.10
27日	火	みづのと	一白	旧えびす講、旧誓文払い、八せん終り、 三隣亡、不成就日	廿	大安	たつ	尾	くゑ日	6.28	16.29	10.08	10.08
28日	水	きのえとら	九紫	親鸞聖人忌、九星陽運始め、甲子、天しや	廿一	赤口	のぞく	箕	よるつ	6.29	16.29	11.00	11.00
29日	木	きのと	八白	親鸞聖人忌、九星陽運始め、甲子、天しや	廿二	先勝	みつ	斗	くゑ日	6.30	16.28	12.48	12.48
30日	金	ひのえとら	七赤	●下弦九時一九分	廿三	友引	たいら	牛	天おん	6.31	16.28	13.45	13.45

※現行太陽暦は天保曆明治五年十一月九日に採用され、同年十二月三日から実施された。

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化したり、月半ばには霜が降りることがある。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りがないようにチェックしよう。

〔冠〕十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんなに古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳の祝(袴着け)は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事なが子が、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたらに華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどうか。

〔祭〕三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といい、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支(えと)によつて、この月(お酉さん)とも「酉の市」ともいって、鷺(おどり)明神の祭祀が行われる。開運の神として盛大であるが、三の酉までである年は、活気がありすぎて火事が多いといふ伝えられている。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまででは旧暦という言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。